

科目名称	老年看護学実習Ⅰ（日常生活支援）	学年学期	単位数	時間数
		第3学年 前期～後期	2	90
担当教員	光宗 真理	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

老年期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、個性や状況に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。さらに対象のその人らしい生活を尊重し、できる限り自立した生活が送れるように援助する。また、これらの援助を通して自らの高齢者観を形成する。

【2】学習目標

1. 対象の発達段階と老化の特徴および健康状態を把握することができる。
2. 老化の程度と健康障害に応じた日常生活援助ができる。
3. 家族関係を理解し、よりよい関係づくりを考慮できる。
4. 高齢者の生活場面を支える職種とその役割を知る。
5. 対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。
6. 実習を通して自己の課題を明確にできる。

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1 週 目	・施設オリエンテーションから、施設の構造・設備を踏まえた利用者の入所環境と老化の特徴を踏まえて利用者像を理解する。 ・老化や病気と共に生きる対象を受持ち、対象の身体的・精神的・社会的側面や家族の思いを理解する。また、ゴードンの11パターンに沿って情報を分析する。老化や疾患から日常生活への影響をアセスメントする。	臨地実習
2 週 目	・受け持ち利用者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。日々の実習の中で看護計画の実施・評価・修正を行う。 ・カンファレンスで関連図を踏まえた看護計画について話し合い、よりよい看護実践につなげる。 ・サービス担当者会議に参加し、多職種との連携や地域包括ケアシステムについて学ぶ。 ・看護師の指導のもと、病棟で行われている日常生活援助技術、処置・検査を見学および実施し、振り返る。 ・3週目に行う学生レクリエーションの企画・進行について計画する。	
3 週 目	・受持ち利用者の看護実践や看護場面から、老化や疾患の受容、残存機能を維持した日常生活援助、退所後の生活への援助の実際を経験し、対象の日常生活での看護を学ぶ。また、状態に応じたより安全で安楽な援助方法の実際を経験する。 ・学生レクリエーションの準備・運営を行い、振り返る。	

【5】評価方法

老年看護学実習Ⅰ評価表を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況、実習の取り組み・出席状況により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

【6】教科書

なし

【7】参考書

老年看護学実習Ⅰ前オリエンテーションで配布した資料
その他は随時紹介する

【8】受講生へのメッセージ

介護老人保健施設での実習です。受持ち利用者さんの生活背景や老化・疾患による障害や症状を理解し、できる限り自立した、その人らしい生活を送ることができるよう援助します。既習の看護過程を展開し、学びを深めましょう。